

第4部 各区の将来像

- 西区の将来像 豊かな自然と歴史文化を活かす すべての人と生活にやさしい 潤いあるまちづくり
- 北区の将来像 私が住みたいまちづくり 市民参加で日々創造
—「ちょうどよいまち」から「もっとよい北区」—
- 大宮区の将来像 うるおいのある高度な生活基盤と氷川の杜の緑と文化が調和するまち
- 見沼区の将来像 見沼の自然との共生
—私たちが まもり育てる 見沼の文化—
- 中央区の将来像 調和のとれた都市文化の創造と交流が育てる安心なまち
ふれあい
- 桜区の将来像 三世代がつくる元気印のまち
—自然あふれる住みよい環境—
- 浦和区の将来像 にぎわいと文教の調和する緑豊かなまち
—ワクワク浦和区、わたしの明日をつくるまち、わたしが明日をつくるまち—
- 南区の将来像 あなたが主役 住んでよかったまちづくり
- 緑区の将来像 ホタル舞い・風かおる緑の街
- 岩槻区の将来像 自然と歴史、文化を守り育て、楽しむまち

西 区

<特 性>

西区は広大な緑の空間を抱える荒川、桜並木の美しい鴨川やびん沼川が巡り、大宮花の丘農林公苑や錦乃原桜草園などがあって、自然環境に恵まれた季節の花々も豊かな「水と緑と花のまち」です。また、祭りなど伝統芸能が今も親しまれ、地域文化が息づいたまちでもあります。

(都市基盤・環境)

区域の東部には国道 17 号新大宮バイパスが南北方向に、北部には国道 16 号西大宮バイパスが東西方向に伸びており、西区と大宮駅周辺地区を結ぶさいたま春日部線やさいたまふじみ野所沢線とともに道路体系の骨格を形成しています。また、JR 川越線によって大宮駅周辺地区を経て東京と結ばれています。

区の中央部は、JR 川越線を挟んで住宅を中心とする市街地が広がっており、その周辺は雑木林や農地が残る緑の多い地域となっています。特に、区の西を流れる荒川沿岸は近郊緑地保全区域に指定されており、まとまった緑地や優良農地が広がると同時に、スポーツ・レクリエーション施設もある憩いの場となっています。今後はこれらの豊かな緑の保全とさらなる活用が求められます。

JR 川越線の指扇駅や西大宮駅周辺地区は、身近な商業機能の集積する区民生活の拠点となっていますが、区域が広いこともあって、駅周辺と各地区を結ぶ交通利便性の向上が強く求められています。コミュニティバスが運行されるようになって一定の改善が図られましたが、一層の充実が必要です。また、団地が開発された地区や土地区画整理事業が進行中の地区では生活基盤が比較的整備されていますが、区南部を中心に駅や主要施設を結ぶ交通や生活道路、公共下水道の整備が遅れている地区もあり、充実が求められています。水稻栽培や果樹栽培などの農業も盛んな西区ですが、スプロール化が進んでいる箇所も見られ、農地と住宅地との調和も課題となっています。

現在、西大宮駅の北側、区役所を含む一帯と南側で土地区画整理事業が進められており、区民の交流や日常生活における新たな拠点として、役割を発揮していくことが期待されています。

(地域資源)

区内には荒川や鴨川などの大きな河川のほか、桜並木が整備されたびん沼川などの水辺や雑木林がありますが、これに加え、東部の三橋総合公園や鴨川みずべの里、西部の荒川沿いの西遊馬公園、南部の錦乃原桜草園、北部の秋葉の森総合公園や大宮花の丘農林公苑など、特色ある公園が多いことも区の魅力となっています。また、秋葉ささら獅子舞や指扇の餅搗き踊りなど市指定無形民俗文化財である民俗芸能が今も親しまれ、神社仏閣など地域固有の歴史・文化資源が保存・継承されています。

しかし、西区の歴史を伝えるこれらの資源も、一部には十分活用されていないものもあ

り、区の魅力向上に向けて、まちづくりに活かしていく視点が求められます。

(コミュニティ)

地域コミュニティの温かさ、活発さは西区の特徴の一つとなっています。今後は、コミュニティの力を自立的なまちづくりに活かしながら、地域文化の伝承と創造、豊かな自然環境の保全、子育てや高齢者の支援などに取り組むために、具体的な施策をどのように進めていくのかが重要な課題です。

西区の将来像

豊かな自然と歴史文化を活かす すべての人と生活にやさしい 潤いあるまちづくり

水と緑と花が象徴する豊かな自然環境、それに囲まれた潤いある住環境、歴史に根ざした地域文化、地域コミュニティの温かさなど西区の特性が調和したまちを実現するとともに、地域住民による主体的な取組を基礎として、すべての人々が共に生きるまちづくり、協働によるまちづくりを進め、区民が心豊かに誇りをもって住み続けられるまちを実現します。

<まちづくりのポイント>

1 安全で、安心して暮らせるまちづくり

- 歩道や街灯などの充実やバリアフリーのまちづくり
- 鉄道駅や主要施設を結ぶ交通ネットワークの充実
- 災害や犯罪などに対する安全性の向上
- 公共用水域の水質保全のための公共下水道の普及、公園やコミュニティ関連施設など公共施設が身近に利用できる環境の整備

2 活力のあるまちづくり

- 生活に密着した商業、都市農業など、区の特徴を生かした産業の育成
- 生産者、消費者、行政が連携した地産地消の推進
- 鉄道駅周辺の整備による活性化
- 区の特徴を生かした学習活動やスポーツ、健康づくりの機会の充実
- 三橋総合公園などの特色ある公園を生かした交流の場づくり
- 豊かな自然と歴史文化にふさわしい景観の保全、文化財や史跡の活用と維持、保存による地区の魅力向上
- 市民参画のまちづくりに向けた、ボランティア活動に関わるネットワークの支援

3 子育てしやすいまちづくり

- 子育て世代にあった保健福祉、教育、交流の充実
- 共働き世帯の増加と少子化の流れに対応し、区民による支え合いの仕組みなども取り入れた、仕事と家庭を無理なく両立できる子育て支援の充実
- 公共施設などを活用した多世代交流の機会づくりや、子ども・青少年の活動機会の充実

4 高齢者が生き生きと生活できるまちづくり

- 高齢者が社会活動に参加できる機会や高齢者の健康づくりの充実
- 地域住民や民生児童委員、地区社会福祉協議会との連携・協力などを通じた高齢者の自立した生活を見守る環境の整備

5 環境と共生したまちづくり

- 雑木林や川、貴重な動植物などの豊かな自然を残し、生かすまちづくり
- 自然環境と調和したまちづくりに向けた、農地の保全と休耕地の有効活用
- 市民参加による自然環境の保全

北 区

<特 性>

北区は本市の北に位置し、世界に誇る日本の文化である盆栽を継承する「大宮盆栽村」や盆栽文化振興の拠点施設である「大宮盆栽美術館」、日本近代漫画の先駆者北沢楽天ゆかりの「漫画会館」や「日進餅つき踊り」などの伝統的な文化財産を有し、個性豊かな地域資源に恵まれた区です。また、区のほぼ中央にある日進・宮原地区は、本市の副都心に位置付けられており、「プラザノース」など、新たな魅力となる公共・公益・商業・業務及び都市型住宅の複合市街地が整備されています。

(都市基盤・環境)

北区には大宮駅から放射状に延びる鉄道・軌道系5路線が走るとともに、国道17号、国道16号東大宮バイパス、産業道路の広域幹線道路などが通過し、交通利便性の高い地区となっています。また、土地区画整理事業などにより都市基盤施設の整えられた市街地がほぼ全域にわたり、北部には大規模な工業団地が、駅周辺や幹線道路周辺には工業・商業・業務地が広がる一方、区の東部を流れる芝川、見沼代用水西縁に沿って緑の空間である見沼田圃が広がっています。

また、宮原地区では区役所、図書館、ホール等の機能を複合化し、さらに芸術創造・ユーマ機能等を有する施設であるプラザノースを中心として、周辺には商業、都市型住宅等が整備され、日進駅周辺地区では、住宅・商業施設等が建設されるとともに、日進駅の橋上化により北口が開設し、駅前広場が整備されています。

このように都市基盤整備は大きく進展する一方で、今後の急激な人口の高齢化に備え、歩行者や自転車利用者が安全に通行できる道路の整備や駅のバリアフリー化など交通環境の向上、災害への対策、中高層住宅と周辺環境との調和なども求められています。

(産業)

北部の吉野町には「大宮総合食品卸売市場」や工業団地があり、さいたま市の流通・生産拠点としての顔を備えているほか、区の中央部から南部にかけてもJR高崎線・川越線の沿線を中心に工場の立地が多く見られます。また、日進・宮原地区での副都心整備により商業・業務機能が向上し、産業面での役割も一層高まるものと期待されます。

(地域資源)

区の南部にある盆栽町にはその名のとおり、盆栽園が集まった一画があり、「大宮盆栽村」として親しまれ、盆栽の素晴らしさ、面白さに気軽に触れていただくための拠点施設である「大宮盆栽美術館」を中心に、国内外から多数の見学者が訪れています。近くには、日本の近代漫画を確立した北沢楽天の作品を展示する「漫画会館」や「市民の森」などもあり、個性的な地域資源に親しめる緑豊かな一帯となっています。また、氷川参道から大宮公園、「大宮盆栽村」、「市民の森」へと続く緑の回廊は、全国にも類例のない貴重な緑地エ

リアとなっています。さらに、西部に位置する鴨川沿いには斜面林に湧く清水があり、「三貫清水」として住民による自主的な清掃活動などにより守られています。

(コミュニティ)

北区は早い時期から副都心として都市基盤施設の整備が進められてきた地区であり、新たな住民も増加していることから、地域住民の交流を活性化していくことが重要です。また、安全・安心の確保や健康・福祉に対する関心も高く、住民、地域団体、事業者、行政など各主体の連携による防災・防犯への取組や、子育て環境の充実及び健康づくりの促進が期待されます。

私が住みたいまちづくり 市民参加で日々創造

—「ちょうどよいまち」から「もっとよい北区」—

まちづくりとは、日々、より良いものを創り続ける持続的なものです。住民、地域団体、事業者、行政など各主体が互いに協力して、豊かな自然と快適な生活環境の調和を図り、盆栽をはじめとする地域資源を生かしつつ、北区の魅力あるまちづくりを進めます。

<まちづくりのポイント>

1 安全で安心して元気に暮らせるまちをつくる

- 防災・防犯・事故防止に取り組む安全・安心なまちづくり
- 子育て環境の充実、健康づくりへの支援、地域における支え合いなどによる、子どもから高齢者まで、誰もが心身ともに健康で元気に暮らせるまちづくり

2 良好な住環境と円滑な交通環境をつくる

- 住宅、工場、農地及び自然環境との調和や景観形成、生活に身近なインフラの整備などによる良好で快適な住みやすい環境づくり
- 公共交通の充実、道路の整備、道路や駅のバリアフリー化、自動車・自転車・歩行者の交通ルールの啓発と交通マナーの向上などによる安全で良好な交通環境づくり

3 教育・文化の充実とコミュニティの活性化を図り、ふれあいのあるまちをつくる

- 学校と地域の結び付きの強化などによる、地域への愛着心の育成と子どもを地域全体で育てる風土づくり
- 盆栽・漫画など固有の伝統文化の育成・継承と、新たな地域資源を発掘し、国内外への情報発信とこれらを生かしたまちづくり
- スポーツ・レクリエーションや、様々な生涯学習のための環境づくり
- 古くから住んでいる住民と新しい住民の交流や世代間交流、コミュニティ同士の交流など多様な交流が盛んなまちづくり
- 地域活動への住民の参加促進と行政の支援による元気な地域づくり

4 自然環境の豊かなまちをつくる

- 市民の森、三貫清水、北区の花「菜の花」や、盆栽町に代表される街なかの緑など豊かで心安らぐ緑地と、鴨川・芝川など水辺環境とのつながりによる、潤いのあるまちづくり
- 水と緑との共生に向けた、環境保全のための活動の充実と意識づくり

5 産業の活性化を図り、働きやすい環境をつくる

- 地域資源を生かし、地域住民のニーズに密着した、人が集まり楽しく過ごせる活力ある商店街づくり
- 盆栽や漫画などの地域資源を活用した、多くの人を訪れる観光のまちづくり
- 地域産業の活性化と、事業者との連携による若者や女性などが働きやすい環境づくり

大 宮 区

<特 性>

大宮区は、本市中央部の北寄りに位置し、古くは武蔵一宮・氷川神社の門前町、中山道の宿場町として栄えました。区のほぼ中央には、全国有数のターミナル駅である大宮駅と県内で最大級の商業・業務地区があり、さいたま市の交通・経済の中心地となっています。

(都市基盤・環境)

本市の都心の一つである区の中央部を新幹線5路線、JR線、東武野田線、埼玉新都市交通ニューシャトルがほぼ南北に伸び、道路は国道17号、旧中山道、産業道路が南北方向の軸、さいたま春日部線などが東西方向の軸となっています。鉄道・幹線道路の充実した区の中央部には商業・業務地区が集積し、高度な都市機能を有するまちとして発展しており、拠点を構える企業が増えています。これらにぎわいのある地区の外側には静かな住宅街が広がっており、区内には、コミュニティ関連施設をはじめ、各種の文化・スポーツ施設などの公共施設の整備も進んでいます。

このように、基本的な生活環境や基幹的な道路・交通はほぼ整備されていますが、大宮駅及び周辺の中心市街地と郊外とを結ぶ東西方向の道路・交通については、さらに充実を図る必要があります。

大宮駅周辺地区は県内でも有数の商業・業務地区であり、近年は駅周辺に教育施設などが増えており、若い人々が集まり、活気が加わっています。今後も、開発の進むさいたま新都心駅東口とともに、まちづくり（再開発事業など）の進捗に伴って新しい時代にふさわしい快適な街並みとして整備されることにより、商業・業務機能の一層の集積による広域的な発展の核となることが期待されています。同時に、区民生活に必要な身近な商業・サービス業が集積した地区として、子どもから高齢者まで誰もが暮らしやすく活動しやすい拠点としての整備も求められています。

(産業)

鉄道のまち、商業・業務・工業のまちとして発展してきた歴史があり、区の中央部に商業、サービス業などの産業が集中しています。特に、商業は市全体の経済活動の面でも重要な役割を担っていますが、古くからの商業地の中には活性化が必要とされているところもあり、事業者と行政が連携して魅力ある商店街づくりを進めることが求められています。また、全国有数のターミナル駅としての拠点性を生かした新たな核となる産業の創出が求められています。

(地域資源)

さいたま新都心から続く氷川参道や大宮公園が区の中央部に緑豊かな一画を形成するとともに、見沼代用水西縁に広がる見沼田圃などの緑濃い空間があります。また、氷川神社、鉄道博物館、大宮ソニックシティ、JACK大宮（大宮情報文化センター・宇宙劇場）などの

歴史・文化施設、野球場やサッカー場のスポーツ施設など人の集まる場が数多く整備されており、これらの資源を活用して人と人との交流を深め、地域に根づいた文化を区民と連携しながら積極的に創造・発信していくことが大切です。

（コミュニティ）

大宮区は歴史のあるまちで、古くからの住民が多く住む一方、マンションの多い中心市街地や郊外には新たに転入してきた区民も増えており、地域住民相互の交流の促進が求められています。その促進のためには、自治会・まちづくり団体・ボランティアグループなどの各種市民活動団体や地域への社会貢献活動を積極的に行う事業者と行政が連携を図りながら地域における目的の実現や課題の解決に向けて協力することが重要です。

うるおいのある高度な生活基盤と 氷川の杜の緑と文化が調和するまち

商業・経済都市としてのまちのにぎわいと暮らしやすい生活環境、憩いの空間である氷川の杜の緑や見沼田圃の自然など、大宮区の特性をより高めながら、多彩な資源を活用して地域文化を発信し、人と人との交流が生み出す活力あるまちづくりを進めます。

<まちづくりのポイント>

1 東日本の玄関としてふさわしい、利便性と機能性を兼ね備えた大宮駅周辺のまちづくり

- 大宮駅周辺とさいたま新都心駅（東口）とが一体となった広域的なまちづくり
- 大宮駅東口における商業のにぎわいと氷川の杜の歴史・文化が調和したまちづくり
- 大宮駅西口周辺の商業・業務機能の充実と、都市施設整備や緑化推進などによる洗練されたまちづくり
- さいたま新都心駅（東口）の商業・文化機能を中心とした、人・物・情報が行き交うまちづくり
- 子どもから高齢者までの地域住民のみならず、訪れる人誰にもやさしく、安心して利用できる大宮駅周辺のまちづくり

2 質の高い生活環境と安心して暮らせるまちづくり

- 安全で安心して暮らせる、災害に強く、犯罪のないまちづくり
- 渋滞のない道路交通や安全な生活道路など、道路・交通環境の整った快適に暮らせるまちづくり
- 区民の健康増進や環境対策の推進などによる、健康に住み続けられるまちづくり
- 育児環境の整った子育てをしやすいまちづくり
- 学校と地域との活発な交流から生まれる、教育環境の整ったまちづくり
- 身近な公共施設の再編整備などに、計画段階から地域住民が参加するまちづくり

3 氷川神社などの区の魅力の発信と、人の交流が生み出すまちづくり

- 氷川の杜の緑や見沼田圃の自然などの緑のイメージ、氷川神社や鉄道をはじめとする歴史伝統文化などの地域固有の資源を活用した個性ある地域文化の創造と発信
- 伝統芸能の振興に加え、地域に根づいた特色ある祭りや誰もが参画できるイベントの積極的な活用と発信
- まちの情報や観光ルートが充実した訪れたいまちづくり
- 区民自らがまちの魅力を知り、高め、伝えるまちづくり

- 若者が集い、活力ある文化を発信するまちづくり
- 区民による文化・スポーツ活動と大宮区を拠点とするプロサッカーチーム大宮アルディージャとの交流による一体感の醸成
- 地域住民相互の交流の活発化、行政と連携したボランティア活動などによるコミュニティづくり

4 自然環境と調和したうるおいのあるまちづくり

- 氷川の杜の緑や見沼田圃の自然などを保全し、憩いの場としての活用
- 緑の拠点づくり、鴨川・鴻沼川・芝川・見沼代用水などを生かした水と緑のネットワーク化
- 街路樹の整備などによる市街地の景観に配慮したゆとりある空間の創出

見 沼 区

<特 性>

市の北東部に位置する見沼区は10区の中で2番目の区域面積を持ち、人口規模も南区について2番目に大きい区です。区域の西から南、東を縁取るように見沼田圃が広がっており、豊かな水と緑に恵まれている一方、北部には高層住宅群をはじめ計画的に形成された市街地が広がり、都市的な生活環境と自然の魅力が共存しています。

(都市基盤・環境)

区のほぼ中央を東武野田線が東西に、北西部にはJR宇都宮線が南北に延びており、いずれも大宮駅と結んでいます。また、幹線道路としては、第二産業道路が区の西部を南北に、さいたま春日部線が区の中央部を東西に延びているほか、東北自動車道岩槻インターチェンジにも近接していますが、広い区域面積に比べて道路や公共交通機関の整備は十分とはいえません。

住宅地としては、北部では土地区画整理事業によって良好な住環境が形成され、見沼代用水東縁と綾瀬川の流れる南東部には見沼田圃が広がり、農地・緑地が豊かに残されています。

区内には、道路や下水道などの都市基盤の整備の遅れ、ミニ開発によるスプロール化や宅地の細分化などもあり、計画的に都市基盤・生活基盤の整備充実を図る必要があります。また、大和田駅から区役所周辺を身近な拠点として機能を高めていくとともに、鉄道駅や区内の主要箇所を結ぶ道路・交通の整備を進め、豊かな自然と共生できる暮らしやすいまちづくりが求められています。

(地域資源)

見沼区は東部を見沼代用水東縁、綾瀬川が流れ、南西部では芝川に近接しており、河川に沿って水田のほか、花き・花木や野菜栽培の畑などが広がり、背後の斜面林と一体となって「見沼田圃」の景観を作っています。また、見沼代用水東縁沿いに緑のヘルシーロードが整備されており、見沼田圃の動植物や景観を楽しむことができます。この他、大宮南部浄化センターの自然庭園・みぬま見聞館、旧坂東家住宅見沼くらしっく館など、緑の文化ともいべき地域資源が多くあります。

しかし、近年は休耕地も増えており、自然景観や生態系の維持のためにも農家、地域住民、行政が連携した積極的な取組による見沼田圃の保全策が重要な課題となっています。

また、区役所に隣接する大宮武道館や堀崎公園などのスポーツ施設や、3つのコミュニティセンターなど、区民の様々な活動の拠点が整備されています。

(コミュニティ)

見沼区では新しく住む人々が増えており、古くから住んでいる住民とこれらの新しい住民との交流が活発な地区も見受けられ、地区の一体感とコミュニティ意識が高い様子が見

られます。また、見沼区には芝浦工業大学などのキャンパスや新興住宅地もあって若い人々が多く、また外国から移り住む人も多く見受けられることから、区内の施設や地域資源を活用して、老若男女様々な人々が交流を深め、見沼の文化をまもり育て、愛されるまちづくりに共に取り組んでいくことが大切です。

見沼の自然との共生

—私たちが まもり育てる 見沼の文化—

区民と行政の協働により、見沼の豊かな自然と心のふれあいをまもり、動きやすく、生活しやすい、安全で安心なまちづくりを推進します。

<まちづくりのポイント>

1 見沼の自然を生かしたまち

- 見沼の多様な自然の保全・活用とネットワーク化の推進
- 見沼の自然を生かし、人々が集まり、活動し、交流することのできる、豊かな水と花や緑あふれるオアシスの創造
- 区民と行政が協働して取り組む、環境や景観に配慮した住宅地の整備、斜面林などの緑地の保全、農業体験や地産地消などを踏まえた農地の保全など自然と調和した土地利用
- 自然エネルギーの活用促進など、環境負荷の少ないまちづくり

2 人にやさしく、ふれあいのあるまち

- 子どもがのびのびと育ち、高齢者が生き生きと暮らせる、あらゆる人にやさしい、思いやりのある地域づくり
- 見沼の自然や歴史など、地域固有の資源を生かした誇りと愛着の持てるコミュニティの創出と文化の振興
- 様々な分野の組織や世代を超えた人々が交流できる場や機会の充実と、情報共有の促進
- 既存施設などの充実や有効活用による、様々な地域活動の活性化に向けた環境づくり

3 動きやすく、生活しやすいまち

- 子どもから高齢者までが移動しやすい、電車・バス・自転車による交通網の充実と、駅や区役所など主要施設へのアクセス性の向上
- スポーツ施設間の連携促進と気軽に運動しやすい環境づくり
- 駅周辺の活性化や下水道の充実など、暮らしやすい生活基盤づくり

4 地域ぐるみで進める安全・安心なまち

- 地域と行政の連携による防災・防犯・交通安全対策の推進
- 歩行者や自転車が安全に、安心して利用できる道路環境の整備

中 央 区

<特 性>

中央区は、従来、狭い区域の中で一体的なまちづくりが行われてきたことから、都市基盤の整備も進んでおり、地域のコミュニティのつながりも深いことが特徴といえます。また、古くから市場町として栄えた歴史から蔵造り住宅などの街並みや文化財が残るとともに、区の東北部に位置するさいたま新都心地区とその周辺では新しい中高層の建築物も増えており、文化的な風情と近代的な景観の都市的な魅力が共存しています。

(都市基盤・環境)

中央区は、区の中央部を縦断する JR 埼京線の 3 駅（北与野駅、与野本町駅、南与野駅）に加えて、区の東側を走る JR 京浜東北線の 2 駅（与野駅、さいたま新都心駅）にも接しています。また、幹線道路としては、南北方向に国道 17 号と国道 17 号新大宮バイパス、東西方向には国道 463 号が伸びており、国道 17 号新大宮バイパス上には首都高速埼玉大宮線もあることから、区内だけでなく広域的な移動においても利便性が高くなっています。

公民館などの身近な公共施設や下水道なども区全体にわたっておおむね整備されています。今後は、都市化の進展による緑の減少への対応、古い街並みと新しい都市空間の調和、歩いて楽しいみちづくりなど、生活環境の質の向上が重要です。

また、与野駅と与野本町駅とに挟まれた区域には、区役所を中心とする公共機関及び商業・サービス業が集積しており、旧与野市時代からまちの中心となっています。しかしながら、交通利便性の向上と市民の生活圏域の拡大に伴って、既存の商店街の活力が失われている面などもあり、今後は、さいたま新都心を中心とした地域全体の魅力向上と地域の均衡ある発展に向けたまちづくりの推進に努める必要があります。

(地域資源)

ほぼ全域が市街化区域となっている中央区では、区の中央を流れる鴻沼川・高沼用水、与野中央公園などの緑が自然とふれあう貴重な資源となっています。今後、その保全や質の向上を図るとともに、より積極的に新しい緑を生み出し、広げていくことが重要です。

また、区内にはさいたま新都心や彩の国さいたま芸術劇場など、広域的に集客できる機能があり、こうした都市機能と有機的に連携したまちづくりを進めていくことも求められます。

(コミュニティ)

中央区では、地域のまとまりの良さもあって、従来から地域住民によるコミュニティ活動が活発に行われ、それらの活動の連携も進んでいます。しかし、これからのまちづくりには、新しく転入してくる住民や地域との関わりが薄い若い世代などの力も必要です。長い歴史を持つ既存の地域コミュニティの実績や人のつながりを生かしながら、より柔軟な新しいコミュニティの形成にも努め、人々の交流をまちづくりの基盤にしていくことが課

題です。

調和のとれた都市文化の創造と^{ふれあい}交流が育てる安心なまち

中央区には、古くから引き継いできた歴史と文化の薫る街並みと家族のような人々の深いつながりがあります。その従来から培われた伝統を生かしながら、さいたま新都心を中心とする都市の魅力を加え、安全・安心な“美しいまち”“美しい心があふれるまち”を創り、次の世代に伝えていくため、人々が積極的に発言し、主体的に行動するまちを目指します。

<まちづくりのポイント>

1 区の特徴を生かした魅力的な街並みと緑豊かな環境づくり

- 区の花バラや与野の大カヤ、鴻沼川の桜、蔵造りの街並みなど、自然や資源の保全・活用・充実
- 公園などのまとまった緑の保全・充実、そうした緑の拠点を川や道を利用してつなぐ緑のネットワークの形成
- ごみの減量化やリサイクル、省エネルギーなどの環境保全活動や道路・公園の清掃などの環境美化活動の推進

2 地域資源を生かした、調和のとれたにぎわいづくり

- 街並みや緑、歴史・文化などの古くからある資源とさいたま新都心や彩の国さいたま芸術劇場などの新しい資源を生かした、古いものと新しいものの調和
- さいたま新都心を中心とした、地域全体の魅力向上と地域の均衡ある発展
- 埼京線沿線の未利用地や道路空間などを有効活用した人々の集まる新たな空間の形成
- 活気ある商店街と地域社会を支える産業の活性化

3 学びと交流を通じた、地域の誇りと愛着を持つ人づくり

- 明日を担う健全な子どもたちの育成と地域の特性を生かした教育の推進
- 地域の歴史・伝統・文化や人材を活用した生涯学習や人づくりの実践
- 子どもから高齢者に至るまで、幅広い世代における地域との関わりや交流を創出する仕組みづくり

4 ふれあいと支え合いによる、安全・安心と生きがいのある地域づくり

- 地域で安心して子どもを産み育てられる環境と、子どもたちの健やかな成長を支える場や機会の提供

- 地域福祉における支え合いのネットワークづくりや交通手段の確保、交通マナーの向上等による高齢者や障害者をはじめとした区民の安全・安心で生き生きとした暮らしの確保
- 災害時における区民自らの役割である自助と地域で支え合う共助、行政の役割である公助などによる安全・安心な地域づくり

5 区民との協働による地域に根ざしたまちづくり

- 主要な公共施設の再編整備等における、区民と共に進めるまちづくり
- 地域を支える自治会をはじめとした各種団体への加入促進による地域活動の活性化
- 区民の自主的な活動と連携の積極的な支援によるコミュニティの充実
- 区民と行政の協働の仕組みづくりと協働の実践の機会の創出
- 地域に根ざした従来からのきめ細かいサービスの維持・向上と、他区との連携による新しいサービスの展開

桜 区

<特 性>

桜区は西側を荒川が流れ、桜草公園や秋ヶ瀬公園、荒川総合運動公園などが自然豊かなグリーンベルトを形成するなど、都市化の進んだ本市の中では田園的な面影を残した地域です。東部や南部には住宅を中心とする市街地が形成されており、国道17号新大宮バイパスに沿っては流通業務施設や工場が立地しているほか、区役所北側には多くの製造業が集積し、工業団地を形成しています。また、区の中央部に位置する埼玉大学は文理5学部を有し、約1万人の教職員・学生が様々な活動を行っています。

(都市基盤・環境)

区内の幹線道路としては、東西方向に埼大通り（国道463号）があり、南北方向には国道17号新大宮バイパスが走っています。また、鉄道駅としては区の南端部にはJR武蔵野線の西浦和駅があるほか、区境に近接してJR埼京線の南与野駅、中浦和駅があります。

しかし、道路交通には、広域幹線道路である国道17号新大宮バイパスとの交差部における渋滞の発生などの問題が見られ、高齢社会の進展や環境問題などにも対応しながら、安全で利便性の高い交通環境の向上に取り組む必要があります。その他にも、災害対策や商業の活性化など、日常生活面での安全性・利便性の向上が求められます。

また、道場地区には記念総合体育館に隣接して区役所、図書館、ホール等を有するプラザウエストが整備され、生涯学習をはじめとする様々な市民活動や行政サービスの拠点となっています。

西浦和駅周辺地区については、暫定的に駅前広場や駅へのアクセス道路が整備されましたが、今後も都市基盤や産業基盤の整備、生活に密着した商業その他のサービス機能の集積など、利便性・機能性の向上が求められます。

(地域資源)

荒川河川敷には、国指定特別天然記念物の田島ヶ原サクラソウ自生地、ハンノキ林などの樹林地など良好な自然環境があり、さらに水田や畑などの豊かな田園環境も残されています。また、大久保古墳群や神社仏閣、田島の獅子舞や宿・神田の祭りばやしなどの歴史的・文化的な資源も豊富です。今後、ゆとりや潤いある生活を送るためには、このような地域の資源を積極的に活用していくことが必要です。

この他、埼玉大学の英知や学生の若い力も地域の資源として、連携しながら特徴あるまちづくりに取り組んでいくことも大切です。

(コミュニティ)

区内には、長く住み続けている住民が多くいる一方で、近年、宅地開発などに伴って新たに転入してきた住民も増え、住民同士の連携もやや希薄になっています。

このため、コミュニティ活動の機会や環境の充実を図りながら、従来のコミュニティ活

動の活性化や多くの住民の社会参加を促し、コミュニケーションの輪を広げ、人と人のつながりを大切にしたコミュニティづくりを進めていくことが必要です。

そして、住民や地域団体、大学、事業者、行政などが連携を図りつつ、子どもから高齢者まで、すべての人々が安全で安心して元気に暮らせる環境づくりに取り組んでいくことが求められます。

三世代がつくる元気印のまち

—自然あふれる住みよい環境—

桜区には、桜草公園から続くグリーンベルトをはじめ、数多くの歴史的・文化的資源のほか、伝統ある埼玉大学、区民の活動拠点となるプラザウエストやスポーツ施設などがあります。今後、これらの地域資源を生かし、子どもから高齢者まですべての区民が生き生きと活動でき、ずっと住みたいと思えるまちを目指します。

<まちづくりのポイント>

1 「自然」と「便利さ」の調和する、住みやすいまちづくり

- 自然と調和し、生活環境の整った、安らぎのある住みよいまちづくり
- 地域の産業の活性化と、これを生かした、ふれあいやにぎわいを生むまちづくり
- 公共交通の充実と、自動車・車いす・人・自転車が安心してスムーズに移動できる道路の整備など交通環境の向上
- 自然資源や歴史的・文化的資源などの保全と、これら地域の財産を生かしたまちづくり
- 一人ひとりの意識の向上と、地域の人々と行政のみんなで行き届いたまちづくりの推進によるきれいなまちづくり

2 子ども、高齢者、障害者にやさしく、元気に暮らせるまちづくり

- 安心して、しっかりと子育てのできるまちづくり
- 子どもたちと地域の住民や大学生などが関わりを深めながら、たくましく育つまちづくり
- 高齢者や障害者が暮らしやすく、元気に活躍できるまちづくり

3 みんなが仲良く安全に安心して暮らせるまちづくり

- 防災・防犯に行政と住民が協働して取り組む、安全で安心なまちづくり
- 古くから住んでいる住民と新しい住民の交流や多世代の交流など、住民がコミュニケーションを深めながら、互いに連携し、誰もが参加して活動を継続できるコミュニティづくり
- 自治会活動やボランティア活動など、子どもから高齢者までの地域住民の活動が盛んなまちづくり
- 誰もが気軽に参加できる住民活動の機会や環境の充実
- 埼玉大学の英知や若さと連携したまちづくり

4 みんなでつくるまち

- 「住民のやる気」をはぐくむ仕組みづくり
- 地域の人々と行政が様々な情報を発信し合い、協働し、信頼関係を生み出すまちづくり

浦 和 区

<特 性>

浦和区は、中山道浦和宿が置かれたことを契機に急速な発展をはじめ、明治初期には県庁が設置され、埼玉県行政の中心地としての役割を担うようになりました。市役所をはじめ県などの官公庁や文化・教育施設が数多いことから、歴史のある文教地区としてのイメージが定着しています。

（都市基盤・環境）

区内には、南北方向に国道 17 号や旧中山道、産業道路が、東西方向には国道 463 号や田島大牧線が伸びて、道路体系の骨格を形成しています。また、JR 線の 3 駅（浦和駅、北浦和駅、与野駅）があり、なかでも浦和駅周辺は商業・業務機能や行政機能が集積する本市の都心として、市の発展の一翼を担っています。大きく見ると、JR 線沿線を境に西側にはオフィス街が、東側は緑の多い住宅街が広がり、にぎわいと潤いが共存するという特性を有しています。

長い歴史の中で発展してきたことから、道路などの都市基盤や公共交通機関、身近な公共施設の整備は比較的進んでおり、生活利便性の高い地区となっています。一方で、都市化による交通混雑の解消や歩行者の安全確保など道路交通環境の向上、増加する中高層住宅と近隣の生活環境との調和といった課題も生じており、その対応が必要となっています。また、市内では極めて人口密度の高い区の一つであることから、身近な緑や都市空間のゆとりの創出など、生活環境の質的な向上にも取り組む必要があります。

（産業）

浦和駅周辺地区には大型商業施設や金融機関などが多く集まり、大宮駅周辺地区とともに本市における商業・サービス業の中心となっています。近年、駅周辺のさらなる機能の向上に向けた浦和駅東口駅前地区市街地再開発事業、鉄道高架化事業が進展し、東西市街地の一体化と新たなにぎわいの創出が期待されています。また、北浦和駅や与野駅周辺にも、商業や各種のサービス業が集積したにぎわいのある地区が形成されています。

しかし、従来からの商店街の一部では時代の変革に伴い活気が失われているところも見られ、その活性化が望まれています。

（地域資源）

浦和区は古くから発展したまちで、その歴史は旧中山道周辺の街並みや神社仏閣、史跡や天然記念物などの文化財、古くから伝わる祭りなどから読み取ることができます。また、美術館や図書館、科学館、スポーツ施設、高等学校なども多く、教育・文化に関わる資源に恵まれていることが特徴です。

浦和区は埼玉サッカー発祥の地でもあり、浦和駒場スタジアム（駒場運動公園競技場）が整備されており、街はサッカーを愛するファンでにぎわいを見せています。また、国際

交流基金「日本語国際センター」が設置されていることを活用するなど、国際交流の機会を創出していくことが期待されています。

（コミュニティ）

浦和区では、自治会が中心となって地域コミュニティ活動や行事などを活発に行っており、ボランティア団体やNPO、市民活動ネットワークなどによる自発的な活動も盛んです。住民の流入が多いため、新たな住民が地域に溶け込み、共に参加できるよう、区内12の公民館や浦和コミュニティセンターなどの恵まれたコミュニティ関連施設を活用しながら多彩なコミュニティ活動の振興を図り、区民間の交流を深めていくことが必要です。

また、市内では単身高齢者世帯の割合が高い区の一つとなっており、地域の見守りを強化し、支え合いのネットワークづくりに取り組む必要があります。

にぎわいと文教の調和する緑豊かなまち

—ワクワク浦和区、わたしの明日をつくるまち、
わたしが明日をつくるまち—

浦和宿に代表される歴史と文化を伝える文教都市・浦和区は、都心としてにぎわいのある地区と、緑豊かな落ち着いた住環境の地区の2つが共存しています。この特性を踏まえ、住み続けたいまち、行ってみたいと思えるまちとしての魅力を一層高めるため、地域に住む人々の参加と協働を基本に、浦和区の歴史、文化、環境の資産を生かしたまちづくりを進めます。

<まちづくりのポイント>

1 世代や文化、地域を超えた多様な交流のあるコミュニティづくり

- 身近な地域での交流や活動の活発化によるコミュニティ意識の醸成
- 地域住民が交流し、地域をより深く知り、考える場や機会の積極的な創出
- 地域住民と行政の協働を実現するための環境の整備
- 世代や文化、居住する地域など様々な差異を超えて人々がふれあい、誰もが楽しく活動し、人々の理解と共感が広がるまちづくりの推進

2 文教都市などの「浦和ブランド」を活用した魅力あるまちづくり

- 子どもたちの夢と希望をはぐくむ、地域に密着した教育の推進
- 生涯を通じた学びの場と機会の拡充
- 恵まれた伝統ある教育・文化・スポーツ資源を活用した、芸術・文化活動の振興
- 旧中山道や神社仏閣が伝える歴史、サッカーやうなぎのまちとしての特性などを生かした区の魅力の向上と情報発信力の強化

3 東西が連携し、一体性と「にぎわい」のあるまちづくり

- 鉄道を挟んだ東西連携による一体的なまちづくり
- 駅周辺などにぎわいの拠点や商店街の持つそれぞれの魅力を再発見、活用した、誰もが訪れやすい活気のあるまちの再生と創出

4 ひとにやさしい誰もが安心して暮らせるまちづくり

- 交通事故、犯罪などの危険や騒音のない、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進
- 災害に強く、安全、快適な都市空間の創出
- 誰もが安心して移動できる環境の整備
- 仕事と介護や子育ての両立支援を含む、高齢者や障害者、子育てに対する総合的な支援

体制の充実

- 高齢者や障害者の自立と支援、子育てなどを互いに助け合い、誰もが元気に活動できる地域づくり

5 緑豊かな美しい街並みとゆとりある住環境を創出するまちづくり

- 中高層住宅と周辺環境とが調和した、ゆとりと潤いのある住環境の維持・創出
- 緑豊かな美しい街並みづくりなど、地域の環境向上に向けた住民参加による取組の推進

南 区

<特 性>

市の南端に位置する南区は東京に最も近く、都内への鉄道利便性も高いため人口増加率が高く、現在、市内 10 区で最大の人口を有しており、若い世代の割合が多いという特徴もあります。この中で、交通利便性に優れ、本市の副都心と位置付けられている武蔵浦和駅周辺では、都市型住宅の供給とともに商業・業務機能の集積を目指して大規模な市街地再開発事業が進められており、本市の南の玄関口として拠点性が高まっています。

(都市基盤・環境)

鉄道網としては、南北方向に JR 京浜東北線、JR 埼京線が、東西方向には JR 武蔵野線が走り、これらが交差する 2 駅（武蔵浦和駅、南浦和駅）に加え、中浦和駅があります。また、幹線道路としては、国道 17 号新大宮バイパス、国道 17 号、産業道路などがあります。全体として見ると、鉄道網による都内への利便性は高いのですが、道路については東西方向の幹線道路などに未整備区間が残されているため、駅周辺をはじめ交通渋滞が目立っており、機能的な幹線道路網の確立が必要です。また、子どもや高齢者が安心して歩行できる道路環境の整備も求められています。

南区は、東京への近接性に優れていることもあって都市化が進み、それに伴って雑木林などが減少してきました。今後も引き続き、マンション建設などによる宅地化の進行が見込まれるため、公園の整備や道路の緑化などに加え、民有地の緑化にも積極的に取り組み、緑を増やしていくことが必要です。同時に、生活道路や下水道をはじめとする身近な生活基盤の充実を図り、環境に配慮した誰もが快適に暮らせる居住空間を築いていくことが求められます。

(地域資源)

緑の空間は減少が続いていますが、東部を中心に屋敷林、社寺林や斜面林が残されており、今後、保全すべき箇所を明確にしながら、潤いある空間として大切にしていける必要があります。また、別所沼や白幡沼、彩湖の水辺空間、鴻沼川や笹目川、藤右衛門川、見沼代用水西縁などの河川・水路があり、水質の維持・向上とともに地域資源として有効活用が求められます。

この他、武蔵浦和駅・南浦和駅周辺などに集積が進みつつある商業・業務機能を新しい地域資源として活用することが課題です。

(コミュニティ)

東京への通勤者が多い南区は、若い世代を中心に人口流入が続く一方、古くから続く祭りや伝統行事が少なくなっているのが現況です。しかし、長く住み続けられるまちづくりのためには、良好なコミュニティが必要不可欠であり、新しいイベントづくりなどを通して住民相互の交流を深めるとともに、地域資源の発掘なども進め、区民が地域に愛着を感

じられるまちづくりが求められます。

また、このようなまちづくりには市民と行政の協働が重要であり、情報提供を推進し、市民のネットワークづくりや市民活動を活発化していくことが課題です。

あなたが主役 住んでよかったまちづくり

南区は、本市の南の玄関口として、交通や生活利便性の高さから、若い世代を中心に人口流入が続いています。区民ニーズが多様化する中で、生活環境の整備を進めるとともに、住民相互の交流や住民活動の活性化を図りながら、郷土愛を醸成し、長く住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

<まちづくりのポイント>

1 人と地域が結び付く、活力あふれるまちづくり

- 区民の自主的な活動とコミュニケーションの活性化により、世代間の交流と地域社会に参加できるまちづくり
- 行政とのパートナーシップの構築を通じた協働によるまちづくり
- 誰もが楽しめる交流・活動拠点の充実によるまちづくり
- 地域のイベントがつなぐ区民のふれあいによるまちづくり

2 子どもから高齢者まで元気に健康で暮らせるまちづくり

- 若い世代が多いという地域の特性を踏まえた、子育てしやすいまちづくり
- 一人ひとりが健康を維持・増進できるよう、互いに支え合うまちづくり
- 家庭、地域社会と連携した学校教育による明日の時代を担う青少年の育成
- 誰もが文化・芸術に親しめるまちづくり

3 安全・安心なまちづくり

- 事故や犯罪のない安全・安心なまちづくり
- 地震や水害などの災害に強いまちづくり
- 防災・減災を目指したまちづくり

4 自然や歴史を大切にしたい情緒豊かなまちづくり

- 計画的な水と緑の保全と、公共空間や民有地の一体的な緑化を推進するまちづくり
- 地域資源の発掘・活用による、地区の個性と郷土愛をはぐくむまちづくり
- 古いものと新しいものが調和したまちづくり

5 都市環境が整った快適なまちづくり

- 地域特性を踏まえた、駅とその周辺整備による暮らしやすいまちづくり

- 誰にもやさしい交通網の整った便利なまちづくり
- 利便性の高い安全な道路や、公共下水道などの生活基盤の整備による、快適な生活環境を備えたまちづくり
- 一人ひとりの環境への関心を高め、理解を深めることにより、省資源・省エネルギーの環境負荷に配慮したまちづくり

緑 区

<特 性>

緑区は市の東南部に位置し、見沼田圃に代表される自然環境に恵まれ、地域の歴史を伝える多くの文化財が示すように古くから人の暮らしが営まれた地域です。現在も、緑豊かな住宅地として多くの市民が暮らしていますが、浦和美園駅周辺地区では「スポーツ、健康、環境・エネルギー」のブランド化を図るまちづくりを促進するなど、新しいまちづくりの戦略的展開も期待されています。

(都市基盤・環境)

緑区は武蔵野特有の雑木林が多い農村地帯でしたが、首都圏の拡大に伴って区の西部や東浦和駅、東川口駅周辺で宅地化が進んできました。さらに、市街地においても緑の多いゆとりある住宅地が形成され、生活基盤の整備が進められています。また、中央部を南北に広がる見沼田圃は地域の貴重な環境資源であり、農地や自然環境の保全とともに、市民に親しまれる場として期待されています。

区内の幹線道路網は、南北方向に走る東部の国道 122 号や西部の第二産業道路、中央部を東西方向に走る国道 463 号により構成されています。鉄道駅は、東浦和駅、浦和美園駅がありますが、区境近くに位置しているため、バスなどが果たす役割が大きく、公共交通の利便性の増大が求められています。

また、浦和美園駅周辺地区では、土地の活用促進や地区の魅力増強に向けた様々な施策を推進し、定着人口・交流人口を増やすことが期待されています。

(地域資源)

緑区は、さいたま緑のトラスト保全第 1 号地の南部領辻地内にある見沼代用水東縁に面する斜面林に代表される見沼田圃の豊かな自然環境、さぎ山記念公園や大崎公園をはじめ、緑の豊かな公園などの環境資源に恵まれています。また、見沼通船堀（国指定文化財）、大門宿本陣表門及び氷川女體神社社殿（県指定文化財）や南部領辻の獅子舞（市指定無形民俗文化財）など、地域の歴史を伝える文化財、神社仏閣や伝統ある祭りや催しものが多く残されています。この他、埼玉スタジアム 2002 は、まちづくりに新しい展開をもたらす地域の核として期待されています。

(産業)

区内には、従来の商店街に加え、大型商業店舗などが増加しています。また、浦和美園駅周辺地区では地区の魅力を生かす施設の誘致が検討されています。

農地では水稲や畑作、植木・花き栽培などが広く行われています。また、近年では観光農園など都市近郊の立地条件を生かした新たな経営形態への取組が図られています。

(コミュニティ)

区内では、勤労者を中心とする子育て世帯など、比較的若い年代の転入者によって人口が増加していますが、旧・新住民の間には、生活上の関心事やまちづくりに対する思いなど意識に差異が見られます。

住みよいコミュニティづくりには、自治会活動やコミュニティ活動を通じて、多様な交流により相互理解を進め、住民活動の活性化を図ることが求められます。

ホテル舞い・風かおる緑の街

見沼田圃や武蔵野の面影を残す雑木林、斜面林など、地域の豊かな緑を大切にしながら、自然環境と調和した生活を実現し、住んで楽しい心の通い合うまちづくりを住民参加により進めます。

<まちづくりのポイント>

1 郷土愛を育てるまちづくり

- 誰もが参加でき支え合うコミュニティづくりと地域のリーダーとなる人材育成の支援
- 地域の文化財などの歴史・文化資源を活用し、子どもの時から自分のまちに関心を持つ、我がまちを誇りとするひとづくり

2 生活者に優しいまちづくり

- 子育て支援、介護を必要とする人と介護をする人に対する支援の充実による、誰もが暮らしやすいまちづくり
- 歩行者や自転車利用者が安全に利用できる道路環境の整備
- 地域の人と人とのつながりを深め、防災・防犯に関する意識の高揚と対策の充実

3 自然と共生するまちづくり

- 緑豊かな環境を生かし、その保全に配慮したまちづくり
- 見沼田圃の農地や斜面林、雑木林などの自然環境の保全と活用
- 多様な野生生物の生息・生育空間となる緑地、水辺環境などの保全・再生

4 生活環境の整ったまちづくり

- 人と環境に優しい公共交通のさらなる充実
- 土地区画整理事業などによる計画的な市街地形成の推進
- ボランティア活動の活性化による、ごみの減量化やリサイクル活動の支援

5 にぎわいのあるまちづくり

- 駅周辺地域の生活利便性の向上とにぎわいの創出
- 産直販売や観光農園など、地産地消の取組による農業の活性化
- 駅や区役所周辺などにおける地域活動の環境づくり

岩 槻 区

<特 性>

岩槻区は、中世から鎌倉街道など主要道路と荒川（現在の元荒川）が交差する交通の要衝として重視され、室町時代以降、城下町として発展し、江戸時代には日光御成道の宿場町としても栄えた歴史のまちです。また、人形のまちとして全国的にも有名であり、岩槻城址をはじめ様々な歴史的な資源と、人形店の並ぶ街並みや人形にちなんだ祭り、イベントなどがあいまって、区内外の人々の交流が生み出されています。台地上には屋敷林や社寺林が残され、これを取り囲むように連なる斜面林、そして、綾瀬川や元荒川をはじめとする水辺がともに緑のネットワークを形成しており、水と緑に恵まれた居住空間を提供しています。

（都市基盤・環境）

区の中央を東武野田線が東西に延び、岩槻駅、東岩槻駅の2駅と大宮駅とを結ぶ、区民の重要な足となっています。現在、地下鉄7号線の延伸促進への取組が行われており、南北方向の新しい軸の形成が期待されています。主要な道路としては、国道122号、国道16号及び国道463号、さいたま幸手線（日光御成道）、越谷岩槻線などがあり、道路体系の骨格を形成しているほか、東北自動車道岩槻インターチェンジがあって、産業の大動脈となっています。

市街地は鉄道沿線にまとまっており、全体的には住宅地を中心としています。人形店の並ぶ商店街、伝統ある寺社や岩槻城址などの歴史文化的資源、各種公共施設など、様々な魅力と機能が集まっており、個性ある拠点となっています。また、市街地の周囲には緑地や農地が広がり、特に、台地上の屋敷林や雑木林とこれらを取り囲む斜面林が、綾瀬川、元荒川と一体となって織りなす風景は、水辺と緑に恵まれた岩槻区を象徴するものとして区民に親しまれています。

コミュニティ施設、文化、スポーツ施設など、身近な公共施設もおおむね整備されていますが、一方で、急激な都市化に都市基盤の整備が追い付かなかった面があり、公共下水道の整備、子どもや高齢者、障害者でも安心して歩ける生活道路や、自転車利用にも配慮した道路の整備、市街地におけるオープンスペースの確保などを進め、潤いのある安全な生活環境の確立に取り組む必要があります。

（産業）

全国的にも知名度の高い人形づくりは200年近い歴史があり、伝統的工芸品にも指定されていますが、年々事業所が減少する傾向にあり、観光などと連携した活性化が模索されています。また、北部の岩槻工業団地を中心に、機械、金属などの製造業も集積し、市内の製造業の拠点として重要な役割を担っています。農業も10区の中で最も活発であり、米のほかクワイ、コマツナ、ネギなどの野菜、アサガオ、シクラメンなどの花や苗木の生産に特色があります。

（地域資源）

国指定史跡の真福寺貝塚、三蔵法師とのゆかりが伝えられる名刹慈恩寺、桜の名所としても知られる岩槻城址公園、時の鐘、岩槻藩遷喬館、さらに日光御成道の杉並木や街並みなど、古くからの歴史を伝える資源が岩槻区には多く残されています。歴史・文化にちなんだ祭りや行事も多く、まちかど雛めぐり、流しびな、岩槻まつり（ジャンボ雛段）、人形供養祭、古式土俵入りなどが、区内外の人々に親しまれています。

水辺と緑も岩槻区を象徴する資源であり、なかでも、キタミソウやチョウジソウの自生地のある元荒川緑地や赤坂沼には希少な動植物が生息しており、将来世代に継ぐべき貴重な自然空間となっています。

（コミュニティ）

長い歴史のある地域コミュニティ活動や、ボランティア活動が活発な区ですが、新しく転入してきた住民や若い世代の参加をより進めるため、地域での交流を深める必要があります。

自然と歴史、文化を守り育て、楽しむまち

岩槻区には豊かな緑と水辺、長い歴史を持つ神社仏閣、城下町や人形のまちとしての地域文化など、多彩な魅力があります。安心して心豊かな生活を送ることのできるまちの実現を基本に、これらの魅力を守り、生かしながら、農業や商工業、観光など産業面での新しい展開も促し、住んでいる人、訪れる人が岩槻のよさを共感できるまちづくりを進めます。

<まちづくりのポイント>

1 多世代の参加と交流による、区民主役のまちづくり

- 住民同士のふれあいなどによる活力豊かな地域コミュニティの醸成
- 区民と行政が連携した地域コミュニティの活性化に必要な仕組みづくり
- 住民があらゆる分野で交流し、多様な文化を認め合い、暮らしを支え合う身近な国際交流の推進
- 区民と行政とのパートナーシップの確立、区民の主体的なまちづくり活動に対する支援などによる、区民と行政が共に考え、はぐくむまちづくりの推進
- 人形づくりや田植えなどの様々な体験を通じた、子どもの地域に対する愛着心や誇り、喜びをはぐくむ地域交流や教育の推進

2 地域資源を生かした、魅力とにぎわいを創出するまちづくり

- 元荒川や赤坂沼、屋敷林・雑木林や斜面林など豊かな自然環境を守り、育てる活動の充実と、水辺と緑のネットワーク化の推進
- 子どもの頃から優れた文化芸術に触れる機会の充実、区民の多彩な文化芸術活動の促進など、豊かな文化環境づくりの推進による、個性ある地域文化の育成
- 人形をはじめとする歴史や文化に根ざした「岩槻らしさ」を磨き、発信し、都市型観光の形成に向けた受入環境の整備
- 環境に優しく、安全な食料を提供する農業の振興や観光農園、クワイ・コマツナ等農産物のブランド化の推進

3 生活環境の整った、安全・安心で暮らしやすいまちづくり

- 次代を担う自立した青少年の健全な育成の推進
- スポーツなど健康づくりのための機会や場所の充実
- 緑や水辺、歴史、文化が溶け合う美しい景観に恵まれた、ゆとりのある居住空間の維持、

創出

- 歩行者及び自転車利用者が安心して通行できる安全なみちづくり
- 交通利便性の向上とにぎわいを創出する地下鉄7号線の延伸促進
- 自助・共助・公助の連携による、地域防災力・防犯力の向上と高齢者や障害者、子育て世帯などが安心して暮らせる地域福祉社会の形成

